

能登半島地震 復興支援ニュース

第4号

2024.4.22

コープいしかわへの配送派遣支援

■3/18(月)~22(金)の5日間

日本生協連によるコープいしかわへの支援の呼びかけに、パルコープから2名の職員を派遣しました。(2月に続いて2回目)
全国17生協から計28名が集まり、それぞれ地域に分かれて代走を行いました。

代走コースは比較的被害が少ないエリアで、コープいしかわの方々は被害が大きかった能登北部のセンターへ応援に行かれました。「支援に来ていただいたおかげで能登北部センターへ職員を派遣させることが出来て本当に助かりました」と感謝のお言葉をいただきました。

能登北部では、日常的に利用されていた組合員さんのうち利用再開されているのは1/3程度で、残り2/3の方はまだ利用できる状態ではなかったり安否が取れていない方、金沢で仮住まいされている方なども少なくないそうです。

荷下ろしの際に、パルよど開発商品「めっちゃうまいチキンステーキ」や「だしが決め手のたこ焼き」を見かけ、自分たちが開発した商品が他生協でも利用されていたことに驚き! ▼



(左から) 都島支所・斎藤リーダー
寝屋川支所・谷口リーダー

配達表や引継ぎ表、トラックの荷姿ひとつひとつの違いに戸惑いましたが、新たな気付きもあり勉強になることも多くありました。



復興支援のシンボルとしてコープいしかわさんが作成されたロゴマークの手作り品をいただきました。
コープいしかわキャラクター「コボ丸」が能登半島を大事に抱きしめ、地元方言で「負けとられん!」とあります。



- ・対面できた組合員さんからは「わざわざ大阪からありがとう。頑張ってるー」などお声掛けいただきました。違う制服でも『生協』は全国共通ワードであり、各地域に根付いていること、ネームバリューの大きさを改めて感じるとともに、人の温かさにも触れ、微力ながらお役立ちできた事に幸福感を持ってました。ニュースで見るのと現地で見るとでは全く受け止めが方が違い、如何に自らが体験することが重要なのかを身をもって知る事ができました。
- ・パルコープに勤めていないと震災や様々な支援活動について、知って考える機会は少なかったと思います。今回の活動を通して日々の業務が当たり前ではないこと、お会いできる組合員さんとの時間は貴重であり大切だと感じました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

■4/12(金)～14(日) 第3回ボランティアバスに参加

(0泊3日)

大阪府生協連主催の第3回ボランティアバスに、支所長・店長をはじめ7名の役職員が参加しました。(参加人数 計29名)
今回は、能登町にある被災者宅の清掃&家財撤去作業と、輪島市での炊き出し(たこ焼き・ラーメン・炊き込みご飯・コーヒー)を行いました。



炊き出しをしているすぐ近くの民家もほぼ全壊のまま手つかずの状態でした



↑築150年の歴史ある家屋。家族との思い出の品がたくさんあり、捨てる物、残す物を依頼主様にひとつずつ確認しながら作業しました。

午後からの炊き出しは、創業61年の「スーパーもとや」さんの駐車場にて行いました。今回はそこで揃えられるものは揃え、用意していた約400食を超える勢いで買い足すほどでした。

お店の商品棚の裏側にはベッドとソファなどが置いてあり、話を聞くと、自らも被災しながら地域住民のライフラインを絶たないように、人が集まる活気ある場所にしたいとの想いで被災当初から営業し続けているとのことでした。



スーパーもとやの店内



一緒にフルーツを
お届けしました！

避難生活で栄養が偏りがちだと思うので、フルーツを載せて現地へ向かいました。避難所でカットフルーツにして提供いただいたそうです！

4月5日、発災当初より、石川県輪島市を拠点に復旧支援活動をされている「コミサボひろしま」の代表・小玉様へ、パルコープより車両の支援としてハイエースを寄贈しました。

パルコープ京橋事務所(本部)にて



コミサボひろしまさんのfacebookで活動の様子をご覧くださいませ→



募金総数：38,346名 43,098,900円(2024/4/15現在)